

家庭での学習 災害への心構え

避難所等の種類

避難所等について、3つの凡例が地図に表記されています。どのような機能があるかおまじやう。

凡例	種別	対象となる施設・場所	役割
	指定避難所 (指定された避難所)	小中学校・高等学校など	災害発生時、災害で家に戻れなくなった市民等を一時的に滞在させるための施設として指定した場所、または施設
	福祉避難所	指定された福祉施設など	要配慮者が必要な生活支援等が受けられ、安心して生活することができる設備が整っている施設
	要配慮者利用施設	福祉施設・小中学校・認定こども園など	災害発生時、支援者を必要とする人(要配慮者*)が生活している施設

* 要配慮者とは、高齢者、子供、乳幼児、妊婦、病人、外国人、身体障がい者のこと

家族で話し合い

家族で避難所の確認や避難の際に必要なことを話し合う

非常時の持ち出し品、備蓄品を備える

災害を乗り越えるには、普段から衣類や非常食等を備えておくことが重要となります。

ローリングストック法

消費と備蓄を繰り返すことで、常に備蓄品を確保できる方法

洪水ハザードマップを使ってみましょう

地図を使って避難所までの避難経路を複数決めておきましょう。
なるべく土砂災害や浸水する経路は避けないようにしましょう。
避難所までの避難経路を実際に歩きましょう。

防災訓練に参加しましょう

災害が発生した時に、速やかに避難行動ができるよう、防災訓練に参加しましょう。

過去の被害を忘れない

56集中豪雨
宮谷川による洪水被害
昭和56年7月に宮谷川が氾濫し、旧金津町が甚大な被害を受けました。

警戒レベル2 避難行動の確認

避難行動を検討した上で災害発生前に活用しましょう。検討したら☑をしましょう。

地図上で自分の家がどこにあるか、確認しましょう。

色が塗られていない
色が塗られている

家が塗られている場所を確認しましょう。

色の塗り方

- 色が塗られていない: 色が塗られていない周りと比べて低い土地や、がけのそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に、必要に応じて避難してください。
- 色が塗られている: 右の条件全てに該当する方は、在宅避難も可能です。

在宅避難が可能な条件

- 家屋倒壊等氾濫想定区域: 河岸浸食、氾濫流に該当しない方
- 浸水の深さが3m(2階)を超える区域: 10.0m以上、5.0~10.0m未満、3.0~5.0m未満に該当しない方
- 土砂災害警戒区域等: 土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)、土砂災害警戒区域(土石流)に該当しない方
- 浸水が長期継続する区域に該当しない方: 水が引くまでで自宅の避難が可能な方(水や食料などの備えが十分な方)→浸水継続時間を確認

早期の立退き避難の判断と行動

- 家屋倒壊等氾濫想定区域に該当
- 浸水の深さが3m(2階)を超える区域に該当
- 浸水が長期継続する区域に該当
- 土砂災害警戒区域等に該当

この場合は在宅避難

- 洪水氾濫がすでに発生している
- アンダーパスが冠水している

災害発生時に備え、チェックリストをもとに非常時の持ち出し品・備蓄品を確認しておきましょう。

最低3日以上の水と食料を備蓄する必要があります。1人1日分の食料×3日以上×家族人数

非常時の持ち出し品チェックリスト

必要な物を記入しましょう

<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> モバイルバッテリー	<input type="checkbox"/> 常備薬	<input type="checkbox"/> マスク
<input type="checkbox"/> 非常食	<input type="checkbox"/> 軍手	<input type="checkbox"/> 救急セット	<input type="checkbox"/> 眼鏡等	<input type="checkbox"/> 消毒液
<input type="checkbox"/> 貴重品	<input type="checkbox"/> ティッシュ	<input type="checkbox"/> ハザードマップ	<input type="checkbox"/> 生理用品	<input type="checkbox"/> 体温計
<input type="checkbox"/> 衣類	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー	<input type="checkbox"/> ポリ袋	<input type="checkbox"/> 育児用品	<input type="checkbox"/> うがい薬

持ち出し品はこれだけではありません。自分に必要なものをあらかじめ決めておきましょう。

警戒レベル3~4 避難時の心得

避難時に注意すべきこと

- 動きやすい服装で避難
- 二人以上で避難
- 特に橋は注意

避難施設の注意点: 避難所に複数の人が集まるため、感染症対策を万全にしましょう。

共助の心を大切にしましょう

- 近隣に呼びかけを
- 要配慮者への避難支援
- 親戚・知人宅への避難も検討

在宅避難の判断と対策

- 判断の決め手
- 水防対策
- 高い建物への避難

あわら市洪水ハザードマップ 観音川版 令和3年3月



洪水ハザードマップについて

洪水ハザードマップは、大雨によって河川が氾濫し、堤防を越えまたは、決壊させた場合に想定される浸水被害を、以下の2つの条件で地図に示しています。

- 想定最大規模版(約1000年に1度の大雨)の時に、想定される浸水深を示しています。
- 計画規模版(約30~150年に1度の大雨)の時に、想定される浸水深を示しています。

学習と避難の際の行動

災害への危険度が高まったとき、警戒レベルごとに警報・注意報が発表されます。これらの情報に注意して、レベルごとに適した行動をとりましょう。

情報面では、市が推奨する行動・学習を警戒レベルごとに分けて記載しています。普段から確認し、学習しましょう。

災害時に自分がすべき行動(マイ・タイムライン)を記入し、活用しましょう。

洪水ハザードマップに関するお問い合わせ先

あわら市 土木部 建設課
〒919-0692 住所: あわら市市姫三丁目1番1号
TEL: 0776-73-1221 (代表) TEL: 0776-73-8032 (直通)
公式ホームページ URL: <http://www.city.awara.lg.jp/>

警戒レベル1 情報の伝わり方、集め方、安否の伝え方

情報の伝わり方

気象庁、福井県、国土交通省、あわら市、市民のみなさん

情報の集め方

福井県 河川・砂防総合情報、防災ガイドブック、i-ameメール

安否の伝え方

171を押し、相手の電話番号を押し、自分の電話番号を押し

警戒レベル5 命の危険

早期の立退き避難が必要な区域

家屋倒壊等氾濫想定区域、氾濫流、河岸浸食

浸水で特に警戒が必要な区域

浸水の深さが3mを超える区域、浸水継続時間が長期に及ぶ区域

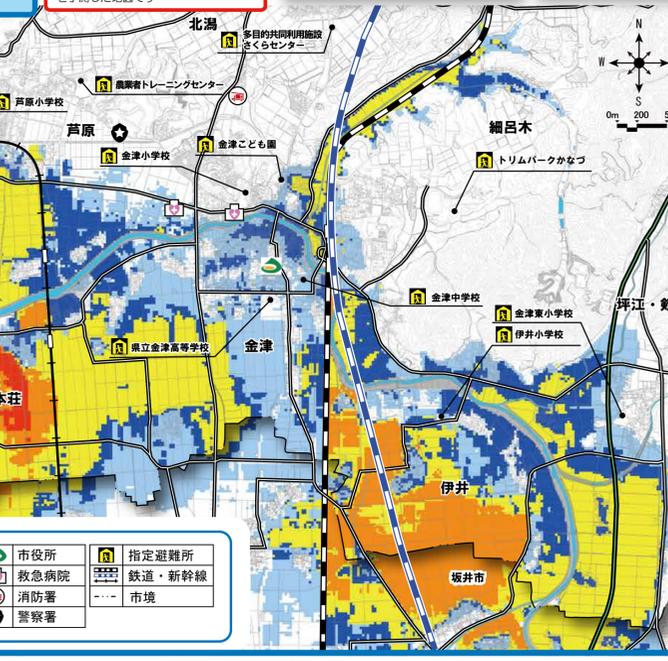
土砂災害警戒区域等

土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域

急傾斜地の崩壊、土石流、地すべり

前兆現象: 1. 川が濁り水が混ざる、2. 山鳴りがする、3. 斜面から湧水がでる

浸水継続時間図



注意点について

安全なうちに「早めの避難」、早期の立退き避難が必要

選げ遅れに伴い長期の在宅避難を行う際の課題

自宅裏の危険な斜面に注意、長期浸水する区域には注意、孤立した場合

マイ・タイムラインを作成しよう

マイ・タイムラインとは、災害が発生した場合「警戒レベル」とそれに伴い「何をやるか」を事前に整理し、急な判断を迫られる災害発生時に、迅速に行動するための防災計画です。

警戒レベル	警戒状況	気象庁からの避難情報	市の対応	とるべき行動	我が家のすべき行動
1	警戒レベル1	学習面を確認	災害への心構え	避難行動の確認	警戒レベル1ですること
2	警戒レベル2	早期注意情報	避難行動の確認	避難先: 避難に要する時間: 異変を感じたら速やかに避難	警戒レベル2ですること
3	警戒レベル3	洪水注意報、氾濫警戒情報	避難時の心得	避難準備を開始	警戒レベル3ですること
4	警戒レベル4	土砂災害警戒情報	避難時の心得	避難指示	警戒レベル4ですること
5	警戒レベル5	大雨特別警報、氾濫発生情報	命の危険	命を守る最善の行動	警戒レベル5ですること

最低限必要となる備蓄品

7日分以上の水や食料、1人1日分の食料×7日以上×家族人数、簡易トイレ、モバイルバッテリー、ポンベ型ガスコンロ、LEDライト、医薬品